

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

1. 学校概要

学校名 秋田市立秋田商業高等学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒010-1603  
秋田県秋田市新屋勝平台1-1

E-mail : akisho@akisho.ed.jp

Website : http://www.akita.ed.jp

児童生徒数：男子 301名 女子 416名 合計 717名  
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校でユネスコスクールとしての活動とESDを主に担っているのは、総合的な学習の時間（本校では「ビジネス実践」と総称）の校内組織の一つ「エコロジカルビジネス班」であるため、ここではその班の今年度の活動内容について報告させていただきたい。

## 1 はじめに

昨年度までの「ユネスコスクール班」は、今年度から「エコロジカルビジネス班」へと名称を変えた。ビジネス実践の枠組みのなかで、よりビジネスに関連したことを行っていくためである。名称が変わったことで、昨年度までこの班で活動してきた生徒の中には戸惑いも見られたが、これまでの良いものを活かしつつ、新たな取り組みに挑戦することもできた。

## 2 活動目的

エコロジカルビジネス班では年度当初、以下の活動目的を掲げた。これは、持続可能な社会を築こうとする人間を育てる教育（持続可能な開発のための教育＝ESD）を視野に入れたものである。

「企業やNPO法人などとの連携を通して、エコロジカル（生態系保全）とビジネス（商業・経済活動）を両立させた『持続可能な社会』の構築のために行動する力を育成する」

この活動目的に沿って今年度は、エコロジカルビジネス班に所属する生徒が2～5名のペアあるいはグループを作り、それぞれ連携する企業やNPO法人を決めて、その連携先の団体が行っている環境保護活動を学ばせていただき、必要に応じてその連携先を訪問したり、連携先の方に学校へ来てもらったりした（上の写真）。



## 3 今年度の取り組み

今年度取り組んだことは、以下の三つのものに大別することができる。

### （1）外部講師による講座

次の期日に外部講師の方々に来校してもらい講座を受講した。7月18日には大曲南中学校の2年生28名と一緒に、10月3日には本校の1年生240名と一緒に受講した。

- 6月27日（木）「私の出会ったカンボジア」  
フォトジャーナリスト 高橋智史氏
- 7月11日（木）「地球環境問題について」  
アーバンマイスターの会幹事 渡部純氏
- 7月18日（木）「環境放射能について」  
Gネイチャーコミュニケーション代表 後藤千春氏
- 10月3日（木）「環境科学って何だろう？」  
秋田県立大学生物資源科学部教授 蒔田明史氏

### （2）企業やNPO法人などとの連携

具体的な連携先と、その連携先で行った主な活動は以下の通りである。

株式会社マルケン・・・

廃タイヤからマット等を再生する企業の取り組みを紹介

株式会社コバリン・・・

もみ殻を固めて各種ボードを再生する企業の取り組みを紹介

一般社団法人あきた地球環境会議・・・

「うちエコ診断」「エコすごろく作り」を実施

NPO法人菜の花ネットワーク・・・

秋田県立大学の学園祭でのブースの手伝い

伊藤良治様・・・

小学生たちと一緒に秋田杉の廃材からリサイクル箸を作成

秋田ユネスコ協会・・・

「外国人による日本語スピーチ・コンテスト」でのボランティア

### (3) AKI SHOPでの活動



フォトジャーナリストの高橋智史氏から写真を提供してもらい、事前に「ババヘラアイスを受け取るカンボジアの少女」をテーマとした大きなモザイクアートを作成し、AKI SHOP会場に展示した(左の写真)。時間と労力のかかる作業であるが、その作業を通して生徒たちはをグループとしての一体感や達成感を味わったようである。

カンボジアの人たちが現金収入を得ることができるよう秋田名物ババヘラをカンボジアに紹介した高橋智史氏の国際協力活動に触発され、生徒たちは、現地で販売されているものと同じババヘラアイスを会場のセリオンで販売しようとしたが、時間的な問題と、生徒が会場で調理・販売してはいけないという制約があり、断念した。その代わりに、急遽、フリーマーケットを行うことになった。エコロジカルビジネス班の生徒たちが物品を持ち寄り、値段を付けて販売した。売り上げ金はフィリピンの台風被災者への支援に充てた。

一方、AKI SHOPとは別に、3人の生徒は、本校で開催されたキッズビジネスタウンに参加し、秋田杉の廃材から箸を作成するブースを担当した。伊藤良治さんの助力により、たくさんの小学生が、あらかじめ棒状になった木材にやすりをかけて、自分なりのリサイクル箸を作った(右の写真)。



### 4 スタディツアーの中止

昨年度申請して受け取っていた助成金20万円を使い、今年度は青年海外協力隊秋田県OB会主催のフィリピン・スタディツアーに2名の生徒を参加させる予定であったが、10月にフィリピン中部を襲った巨大台風の影響により、このスタディツアーは中止になった。訪れることになっていたセブ島北部が被害を受けたほか、セブ島の空港は支援物資の輸送拠点になった。

このように中止にはなったが、台風の被害を受けた現地の人たちに対して、青年海外協力隊秋田県OB会を通して寄付金を届けることになった。フリーマーケットでの売り上げ金3,500円と、『ユネスコスクールによるESDの実践』等の書籍の印税23,650円を寄付することができた。さらに、2月になってからは、年度当初に出版社から受け取っていた『高校生のための国際協力入門』と『高校生のための地球環境問題入門』の印税11,120円を、フィリピンの子どもたちへの支援金として、秋田ユネスコ協会を通して聖心会へと寄付することもできた。

なお、このスタディツアーが中止になったのを機に、今後、エコロジカルビジネス班として生徒を海外へ送り出すのはやめたいと考えている。理由としては、「エコロジカルビジネス」に名称が変わり、国際理解・国際協力よりも環境問題を重視するようになったこと、さらに、外部団体からの助成金を得るのが難しくなってきたことなどが挙げられる。この班も、時の流れとともに、変化することを余儀なくされていると言える。

